

# FormMagicfolder

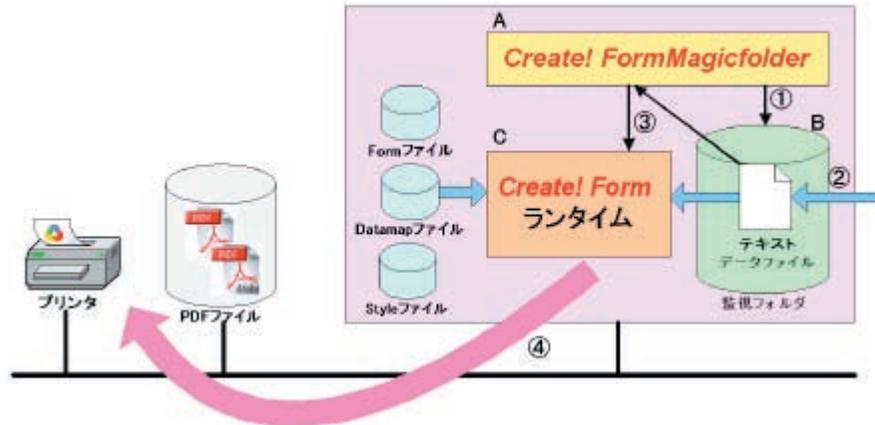
1. 概要.....	2
1-1. FormMagicfolder 製品概要.....	2
1-2. フィルタ処理による仕分け・データ加工.....	3
2. 設定ツール.....	4
3. サーバの設定.....	5
3-1. ログ.....	5
4. サービスの開始・停止.....	6
5. 監視フォルダの登録・解除.....	8
6. 監視処理の開始・停止.....	12
7. パラメータ取得ルール機能.....	14
7-1. ファイル名からパラメータを取得.....	14
7-2. ファイル先頭行からパラメータを取得.....	15
7-3. パラメータの値が空の場合に初期設定を使用する.....	16
8. フィルタ機能.....	17
8-1. 前処理用フィルタ.....	19
8-2. 後処理用フィルタ.....	27
9. スケジュール機能.....	32
10. エラー処理機能.....	34
11. ジョブプロパティ.....	36
11-1. マクロ.....	36
11-2. プロパティ一覧.....	37
12. エラー発生時.....	42
13. 旧バージョンからの移行.....	43
13-1. 設定のインポート.....	43
13-2. 互換性に関する注意事項.....	43
14. 監視フォルダの動作について.....	45
14-1. 投入ファイルの処理順序.....	45
14-2. ファイルの並列処理.....	45
14-3. ファイル投入から処理完了までの流れ.....	46
15. フィルタ詳細・エラーメッセージ.....	47
15-1. データファイル分割.....	47
15-2. データファイル挿入.....	50
15-3. メール送信.....	53

## 1. 概要

### 1-1. FormMagicfolder 製品概要

Create!FormMagicfolder（以下、FormMagicfolder）は、任意のフォルダ（ディレクトリ）を監視フォルダとして設定し、監視フォルダ内にデータファイルの生成を検知すると、あらかじめ設定したパラメータを使用してFormCastなどの帳票出力ランタイムを実行するオプション製品です。

図：Create!FormMagicfolder



1. FormMagicfolder が監視フォルダを監視
2. FormMagicfolder が監視フォルダ内へのデータファイル生成を検知
3. FormMagicfolder が Create!Form ランタイムへ帳票出力を指示
4. Create!Form ランタイムにより指定のプリンタへ印刷、もしくはファイルを生成

監視フォルダは複数用意することができます。どの帳票をどのプリンタへ（もしくはどのファイルへ）どのような設定で出力するのかといったような情報は、あらかじめ監視フォルダ固有の設定として登録しておくことができます。また、データファイルのファイル名やファイル内容からそのような情報を取得して処理することもできます。

動作環境やインストール方法については、Design マネージャのメニュー [ヘルプ]-[オンラインマニュアル] から「1. インストール」をご覧ください。

また、V8 以前の FormMagicfolder をお使いの方は「13. 旧バージョンからの移行」をご覧ください。

## 1-2. フィルタ処理による仕分け・データ加工

監視フォルダにデータファイルが生成されるとデータファイルごとに以下のような処理フローが実行されます。

図：監視フォルダの処理フロー



1. 監視フォルダ内にデータファイルが生成されたことを検知
2. 前処理フィルタプログラムが登録されていればその処理を実行
3. データファイルの内容から帳票出力情報を取得
4. Create!Form ランタイムを実行
5. 後処理フィルタプログラムが登録されていればその処理を実行

※より詳細な監視フォルダの処理フローについては「14. 監視フォルダの動作について」をご覧ください。

監視フォルダの処理では、前処理フィルタ、後処理フィルタというかたちで Create!Form ランタイム実行の前後にそれぞれ任意の処理を付加することができます。これにより、例えば前処理フィルタによってデータファイルの内容を帳票出力用に加工したり、出力された PDF 帳票を後処理フィルタによってメール送信させるといったことが実現できます。詳しくは「8. フィルタ機能」をご覧ください。

また、データファイルのファイル名やファイルの先頭行に記述された内容から情報を取得してそれを帳票出力用の設定として使用することができます。例えば、「sheet\_20.csv」という名前のファイルを監視フォルダに生成すると、そのファイルを使用して“sheet”という帳票を20部印刷する、といったようなことや、ファイルの先頭行にプリンタ名を記述しておくとそのプリンタで印刷させるといったようなことが実現できます。詳しくは「7. パラメータ取得ルール機能」をご覧ください。

## 2. 設定ツール

FormMagicfolder には Windows 環境で動作する設定ツールが付属しています。監視フォルダの登録・解除などの設定から、サービスの開始・停止、監視フォルダの開始・停止といった管理を画面上的操作で行うことができます。

設定ツールは Windows のスタートメニューから [Create!Form V10]-[FormMagicfolder 設定] を実行すると起動します。

図 : FormMagicfolder 設定ツール

ID ▲	用途	状態	帳票名	実行モード	出力先	監視モード	ルール	前処理	後処理	通知
sample_default	標準 (サンプル)	-	社員台帳	FormCast	\${mf.home}/sampl...	通常				○
sample_insert	データファイル挿入 (サンプル)	-	データファイル挿入	FormCast	\${mf.home}/sampl...	通常		○		○
sample_split	データファイル分割 (サンプル)	-	データファイル分割	FormCast	\${mf.home}/sampl...	通常		○		○

画面上には登録されている監視フォルダの一覧が表示されます。

### 3. サーバの設定

FormMagicfolder サーバの設定は、FormMagicfolder 導入ディレクトリ内の「conf/cmf-server.properties」の内容を編集することで行います。

#### 3-1. ログ

サーバの稼働状況はログとして出力することができます。ログには通常のサービス稼働ログ、エラーログの2種類があり、さらに監視フォルダ毎のログがあります。エラーログはエラーが発生したときのみ出力されます。ログファイルは、初期設定ではFormMagicfolder 導入ディレクトリ内の「var/log」ディレクトリに出力されます。

ログの出力設定を行う場合は、以下の手順で行います。

1. FormDesign マネージャのメニュー [ 設定 ]-[ ログ設定 ] からログ設定ダイアログを起動します。
2. Magicfolder 製品を選択し、[ ログ出力する ] のチェックを有効にします。
3. サービスの再起動時にログをクリアしたくない場合は [ 追記モードでログを記録する ] のチェックを有効にします。
4. [ サービス稼働ログファイル名 ] 欄にファイル名を入力します。
5. [OK] ボタンで設定を確定します。

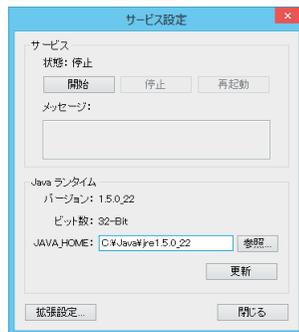
ログの出力設定の詳細については、Design マネージャのメニュー [ ヘルプ ]-[ オンラインマニュアル ] から「1. インストール」-「1.3 導入環境の設定」-「ログファイルの出力設定」をご覧ください。

## 4. サービスの開始・停止

FormMagicfolder はサービスとして動作します。FormMagicfolder サービスの開始・停止は設定ツールから行うことができます。

設定ツールのメニューから [ 設定 ]-[ サービス設定 ] を実行すると次の画面が表示されます。

図： サービス設定



[ サービス ] の以下のボタンをクリックすることで、FormMagicfolder サービスを制御することができます。

### [ 開始 ] ボタン

FormMagicfolder サービスを開始します。

### [ 停止 ] ボタン

FormMagicfolder サービスを停止します。

### [ 再起動 ] ボタン

FormMagicfolder サービスを停止後、開始します。

なお、FormMagicfolder サービスを制御するためには、JRE (Java Runtime Environment) の導入および、環境変数 [JAVA\_HOME] の設定が必要となります。[ サービス設定 ] 画面にて環境変数 [JAVA\_HOME] の設定を行う場合は、[Java ランタイム]-[JAVA\_HOME] の項目へ JRE の導入先パスを指定し、[ 更新 ] ボタンをクリックしてください。正しく設定が行われると、Java ランタイムのバージョンおよびビット数が表示されます。

[JAVA\_HOME] の設定にてエラーが発生する場合、以下の点について確認してください。

- ・ JRE の導入先のパスが正しいか、アクセス権限があるかどうか。
- ・ FormMagicfolder 製品と同一のビット数の JRE が導入されているかどうか。
- ・ JRE5 以上が導入されているかどうか。

また、FormMagicfolder はWindows サービスとしてインストールされます。サービス名は「magicfolderd10」、表示名は「Create! FormMagicfolder V10」です。Windows の起動時に FormMagicfolder サービスも自動的に開始させる場合は、以下の手順でサービスの設定を変更してください。

1. Windows のコントロールパネルから [ 管理ツール ]-[ サービス ] を実行
2. 「Create! FormMagicfolder V10」サービスのプロパティを表示
3. [ スタートアップの種類 ] を [ 自動 ] に変更

## 5. 監視フォルダの登録・解除

### 監視フォルダを登録する

新しく監視フォルダを登録する場合は、設定ツールのメニューから [ 監視フォルダ ] - [ 新規登録 ] を実行します。次の画面が表示されるので監視フォルダの設定を行います。

図：監視フォルダ登録

画面上部にある [ ID ] 欄に表示されている値が「監視フォルダ ID」となり、監視フォルダ固有の ID となります。

図：監視フォルダ ID

この例では、監視フォルダ ID は「001」です。監視フォルダ ID は自動的に割り当てられ、画面上から変更することはできません。

監視フォルダの設定は最大 999 個まで登録できます。

### 監視フォルダのパスを設定する

最低限必要な設定は [ 監視フォルダ ] 欄に監視フォルダのパスを入力することです。入力欄に直接入力するか右側の [ 参照 ] ボタンをクリックしてディレクトリを選択してください。

**<< 注意 >>**

ネットワーク上の別のマシンで共有公開されているディレクトリを指定する場合は、UNC パス（「¥¥servername¥path」のような形式）で指定してください。ネットワークドライブにマウントしてドライブレターを割り当てた形式（「Z:¥path」のような形式）ではアクセスすることができません。また、その際はサービスの起動ユーザとアクセス権限にご注意ください。

**<< 注意 >>**

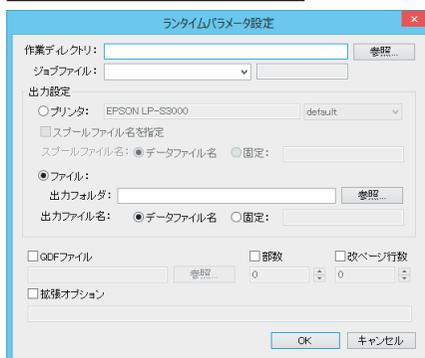
同一のフォルダを複数の監視フォルダ設定に登録することは可能ですが、それらを同時に動作させることはできません。その場合、後から監視を開始した監視フォルダはエラー停止状態になります。

## 実行モードを設定する

次に [実行モード] の選択リストから、その監視フォルダで実行する出力ランタイムを選択します。例えば「FormCast」を選択した場合、その監視フォルダにデータファイルが生成されると、そのデータファイルを使用して FormCast ランタイムが実行され PDF 帳票が出力されます。

[実行モード] 欄の右側の [設定] ボタンをクリックすると次の画面が表示され、出力ランタイムに関する設定を行うことができます。

図：ランタイムパラメータ設定

**[ 作業ディレクトリ ]**

処理対象となる帳票資源ファイル一式が配置された作業ディレクトリを指定します。直接入力または [参照] ボタンをクリックして選択してください。

**[ ジョブファイル ]**

使用するジョブファイルを指定します。直接入力するか、リストから選択してください。リストは [作業ディレクトリ] が入力されている場合、その作業ディレクトリに含まれているジョブファイルが表示されます。

**[ 出力設定 ]**

帳票をプリンタもしくはファイルに出力する設定を行います。

**[ プリンタ ]**

出力プリンタを指定します。リストの中から出力するプリンタを選択してください。出力したいプリンタがリストの中に存在しない場合は、Create!Formの「プリンタ設定」を行ってください。

**<< 注意 >>**

ネットワークプリンタへ印刷を行う場合は、ネットワークプリンタへの出力権限・設定が設定されているか確認してください。FormMagicfolder サービスの実行用アカウントを用意している場合は、一度そのアカウントでログインし、ネットワークプリンタの設定をすることが必要です。

**[ スプールファイル名を指定 ]**

Windows の印刷キューに表示されるスプールファイル名を指定します。

[ データファイル名 ] の場合は、データファイル名がそのままスプールファイル名となります。

[ 固定 ] の場合は、スプールファイル名を直接入力で指定します。

なお、未指定の場合、[FormPrint] では「C!FP - (データファイル名)」、[FormPrintStage] では「C!FPS - (データファイル名)」がスプールファイル名となります。

**[ ファイル ]**

ファイル出力に関する設定を行います。

**[ 出力フォルダ ]**

出力ファイルを保存するフォルダを指定します。直接入力または [ 参照 ] ボタンをクリックして選択してください。指定しない場合は、作業ディレクトリ下にファイルが作成されます。

**[ 出力ファイル名 ]**

[ データファイル ] の場合はデータファイル名の拡張子を製品毎に以下の拡張子に変えたファイル名でファイルが作成されます。

```
[FormCast][FormCollect] -> ".pdf"  
[FormPrint] -> ".ps"  
[FormPrintStage] -> ".emf"  
[FormPrintStage Web] -> ".ccd"
```

[ 固定 ] の場合は、ファイル名を直接入力で設定します。

**[ QDF ファイル ]**

QDF ファイルを指定します。直接入力または [ 参照 ] ボタンをクリックして選択してください。

**[ 部数 ]**

プリンタに出力する場合の部数を指定します。指定できる部数の上限は 99999 部です。指定しない場合は、1 部出力となります。

**[ 改ページ行数 ]**

改ページ処理を行う行数を指定します。

### [ 拡張オプション ]

その他の拡張オプションを直接入力します。オプションの間は半角スペースで区切ります。例えば PDF セキュリティオプションを付加する場合は「-Xmfoo -Xubar -X40」のように入力します。実行オプションについては、Design マネージャのメニュー [ ヘルプ ]-[ オンラインマニュアル ] から「5. 出カランタイムの呼び出し」-「5.2 実行オプション」-「ランタイムを実行するときに指定する実行オプション」をご覧ください。

設定を確定する場合は [OK] ボタンをクリックします。

## データファイルのバックアップを設定する

入力データファイルは監視フォルダで検知されると監視フォルダからは削除されます。データファイルを残しておきたい場合は、[ 入力データファイルを残す ] 設定を行うことで別のディレクトリへデータファイルのバックアップコピーを作成することができます。

バックアップの設定を行う場合は、[ 入力データファイルを残す ] のチェックを有効にして、[ 保存先ディレクトリ ] 欄にバックアップ先のディレクトリのパスを入力するか右側の [ 参照 ] ボタンをクリックして選択してください。

## ログを設定する

監視フォルダの稼働状況はログとして出力することができます。これは FormMagicfolder サービス全体のサービス稼働ログとは別に監視フォルダ毎に出力されます。ログには通常のログとエラーログの 2 種類があり、エラーログはエラーが発生したときのみ出力されます。ログファイルは、初期設定では FormMagicfolder 導入ディレクトリ内の「var/log」ディレクトリに出力されます。

ログの出力設定を行う場合は、以下の手順で行います。

1. 監視フォルダの設定ダイアログにある [ ログを出力する ] のチェックを有効にします。
2. [ ログファイル ] [ エラーログファイル ] 欄にファイル名を入力します。
3. [OK] ボタンで設定を確定します。

ログの出力設定の詳細については、Design マネージャのメニュー [ ヘルプ ]-[ オンラインマニュアル ] から「1. インストール」-「1.3 導入環境の設定」-「ログファイルの出力設定」をご覧ください。

## 監視フォルダの設定を変更する

登録した監視フォルダの設定を変更する場合は、設定ツールの監視フォルダリストで変更したい監視フォルダを選択し、メニューから [ 監視フォルダ ]-[ プロパティ ] を実行します。

監視フォルダの設定画面が表示されますので、登録時と同様に設定を行います。

## 監視フォルダの登録を解除する

監視フォルダの登録を解除する場合は、設定ツールの監視フォルダリストで解除したい監視フォルダを選択し、メニューから [ 監視フォルダ ]-[ 登録解除 ] を実行します。

## 6. 監視処理の開始・停止

### 状態確認

監視フォルダの動作状態は管理ツール上では、監視フォルダ一覧の「状態」欄に表示されます。

図：状態



フォルダ名	状態	帳票名
/sample/magic...	開始	

#### <<注意>>

FormMagicfolder サービスが停止している場合、監視フォルダの状態はすべて「-」となります。状態を変更するためには、FormMagicfolder サービスを「開始」状態にしてください。

### 開始

監視フォルダは登録された時点では「停止」状態になっています。この状態では FormMagicfolder サービスが開始していても監視処理は行われません。監視を有効にするためには「開始」状態にする必要があります。

監視フォルダを「開始」状態にする場合は、設定ツールの監視フォルダリストで「開始」状態にしたい監視フォルダを選択し、メニューから [監視フォルダ]-[開始] を実行します。

監視フォルダが「開始」状態になると、[状態] 欄の表示が「開始」になり、フォルダの監視処理が開始されます。

図：「開始」状態



フォルダ名	状態	帳票名
/sample/magic...	開始	

### 停止

監視フォルダを停止したい場合は、設定ツールの監視フォルダリストで「開始」状態にしたい監視フォルダを選択し、メニューから [監視フォルダ]-[停止] を実行します。

監視フォルダが「停止」状態になると、[状態] 欄の表示が「停止」になり、フォルダの監視処理が停止します。

図：「停止」状態



フォルダ名	状態	帳票名
/sample/magic...	停止	

## 一時停止

「開始」状態ではデータファイルが投入されると帳票出力処理が即時行われます。「停止」状態ではデータファイルが投入されても何も処理が行われません。「一時停止」状態ではこの中間の動作となり、監視処理は行われますが帳票出力処理は行われません。

監視は継続して行い、データファイルをある程度溜めておいて、印刷実行は後からまとめて実行したい、というような場合に利用します。監視中のデータファイル投入順は正しく記録されているため、投入順序が重要な場合は「停止」よりも「一時停止」を利用してください。

監視フォルダを一時停止させたい場合は、設定ツールの監視フォルダリストで「一時停止」状態にしたい監視フォルダを選択し、メニューから [監視フォルダ]-[一時停止] を実行します。

監視フォルダが「一時停止」状態になると、[状態] 欄の表示が「一時停止」になります。

図：「一時停止」状態



## 7. パラメータ取得ルール機能

監視フォルダ内に生成されたファイルをどのような設定で帳票出力するかは、監視フォルダのランタイムパラメータ設定であらかじめ指定しておいた内容に従います。加えてデータファイルの内容から設定情報を取得して処理を行うこともできます。

例えば、監視フォルダの設定にはジョブファイル名の指定は行わず、データファイルの先頭行にジョブファイル名を記述することによって、データファイルごとに出力する帳票の種類を切り替えるといったことが実現できます。

このような仕組みを実現する機能が「パラメータ取得ルール」機能です。この機能を利用する場合は、監視フォルダの設定画面の「ルール」タブで設定を行います。

図：ルール設定



ここで指定することができるパラメータについては「11. ジョブプロパティ」の項目をご覧ください。

※パラメータ取得ルールには、ファイル名からパラメータを取得する設定とファイル先頭行からパラメータを取得する設定があり、これらは組み合わせで指定することができます。同一のパラメータが異なる設定で指定された場合、ファイル名からの取得設定が優先されます。

### 7-1. ファイル名からパラメータを取得

例えば「sheet\_PRT3\_20.csv」というファイルであったら、「sheet」というジョブファイルを「PRT3」のプリンタへ20部印刷する、というようにファイル名で帳票出力を制御する場合は、ファイル名からのパラメータ取得設定を行います。

データファイル名からパラメータを取得する場合は「ファイル名からパラメータを取得」のチェックを有効にし、以下の項目を設定します。

#### 【区切り文字】

ファイル名を区切るための文字を指定します。文字は複数指定することができます。例えば「.」と指定された場合は「.」と「\_」でそれぞれ区切られます。複数文字を組み合わせで区切り文字として扱うことはできません。（区切り文字は必ず1文字単位で認識されます）

**[ サンプルデータ ]**

ここにファイル名を入力すると下の [ パラメータ ] 欄に実際に区切り文字で分割された内容が表示されます。実際に使用する形式のファイル名を入力して設定の確認に利用してください。

**[ パラメータ ]**

区切り文字によって分割されたファイル名トークンをどのパラメータに振り分けるかを指定します。1項目から5項目まで指定可能です。それぞれ選択リストからパラメータを選択して指定します。

**7-2. ファイル先頭行からパラメータを取得**

データファイルの先頭行にパラメータを記述しておくことでそのパラメータに従って帳票を出力することができます。

データファイルの先頭行からパラメータを取得する場合は [ ファイル先頭行からパラメータを取得 ] のチェックを有効にし、以下の項目を設定します。

**[ パラメータ ]**

ファイルの先頭1～5行目まででどの行をどのパラメータに振り分けるかを指定します。チェックが有効になっている行数までをパラメータ取得に使用します。

**<< 注意 >>**

UTF-16LE (BOMなし) または UTF-8 (BOMなし) の文字コードで作成された CSV/TXT データファイルに対してファイル先頭行からパラメータを取得する機能を使用する場合は以下の設定を行ってください。

1. 監視フォルダ設定画面の左下にある [ 拡張設定 ] ボタンをクリックする
2. 「拡張設定」画面で [ 追加 ] ボタンをクリックする
3. [ 設定名 ] 欄に「input.file.charcode」と入力する
4. [ 値 ] 欄の右端にある [...] ボタンをクリックする
5. [ 値 ] 欄に「UTF-16」または「UTF-8」と入力する

**アノテーション**

ファイルの先頭行数を固定したくないような場合は、アノテーション機能を使用してパラメータを指定します。アノテーション機能は、ファイル先頭行に以下のように記述することでパラメータを指定する方法です。

```
<cf:mf-annotation>
cf.opt.s = sheet
cf.opt.# = PRT3
cf.opt.nc = 20
</cf:mf-annotation>
```

上記例のように次の形式でパラメータを記述します。

- ・ <cf:mf-annotation> と記述した行からパラメータ指定を開始します。
- ・ </cf:mf-annotation> と記述した行までをパラメータ指定に使用します。
- ・ 各パラメータは「cf.opt.s = sheet」のように「キー = 値」形式でパラメータを記述します。

指定可能なキーについては「11. ジョブプロパティ」の項目をご覧ください。

<< 注意 >>

監視フォルダへデータファイルを投入後に値が展開される “in”、“out”、“cf.result.code” などのパラメータに対して「キー = 値」形式でパラメータを記述することはできません。アノテーション機能では、値が展開されないパラメータのみ記述することができます。

アノテーション機能を使用するとファイル先頭行数を固定せず、また 6 行以上の行数をパラメータ指定に使用することができるため、より柔軟なデータファイルレイアウトを用いてパラメータを指定することができます。

### 7-3. パラメータの値が空の場合に初期設定を使用する

[ファイル名からパラメータを取得]または[ファイル先頭行からパラメータを取得]が有効な場合のみ設定することができます。[パラメータの値が空の場合に初期設定を使用する]を設定すると、取得したパラメータの値が空の場合にそのパラメータを無視します。

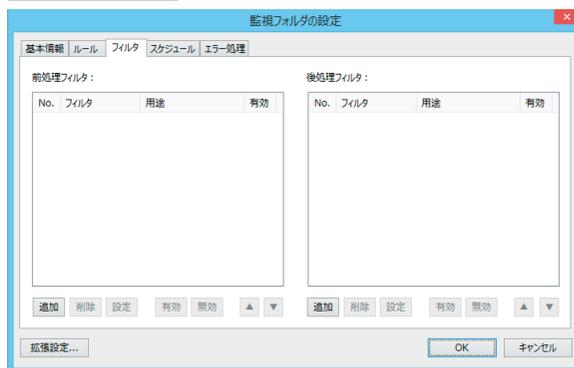
例えば、ランタイムパラメータ設定にてジョブファイルを指定し、ファイル先頭行ルールの 1 行目にジョブファイルを指定したとします。入力データファイルの 1 行目にジョブファイル名を記述して監視フォルダへ投入すると、そのジョブファイル名でランタイムが実行されます。一方、入力データファイルの 1 行目を空行（ジョブファイル名を記述しない）で記述し、監視フォルダへ投入すると、1 行目のパラメータは空のため無視され、ランタイムパラメータ設定で指定したジョブファイル名でランタイムが実行されます。[パラメータの値が空の場合に初期設定を使用する]が未設定の場合は空でパラメータが設定されますが、有効にすることで空のパラメータを無視するような動作にすることができます。

## 8. フィルタ機能

監視フォルダの処理では、Create!Form ランタイム実行の前後にそれぞれ任意の処理を付加することができます。例えば帳票出力前にデータファイルの内容を帳票出力用に加工したり、出力された PDF 帳票をメール送信させるといったことが実現できます。

このような仕組みを実現する機能が「フィルタ」機能です。この機能を利用する場合は、監視フォルダの設定画面の「フィルタ」タブで設定を行います。

図：フィルタ設定

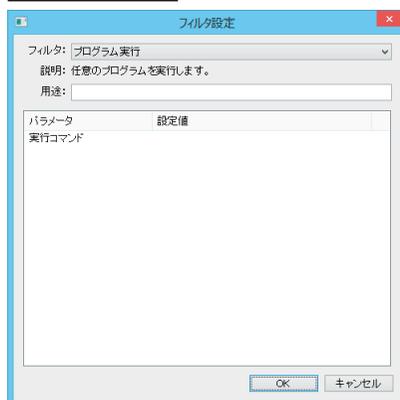


帳票出力（出力ランタイムの実行）の前後にそれぞれ 10 個までフィルタを登録することができます。帳票出力の前に処理を追加する場合は「前処理フィルタ」、後に処理を追加する場合は「後処理フィルタ」にそれぞれ追加していきます。

### 追加

フィルタを追加する場合は、フィルタリストの下にある「追加」ボタンをクリックします。次の画面が表示されるので、フィルタの設定を行います。

図：フィルタ設定



[ フィルタ ] 欄で使用するフィルタを選択します。製品の初期構成では前処理フィルタにて「プログラム実行」、「データファイル分割」、「データファイル挿入」フィルタが選択可能です。一方の後処理フィルタでは「プログラム実行」、「メール送信」フィルタが選択可能です。「プログラム実行」は、任意の実行可能プログラムを実行するためのフィルタ、[ データファイル分割 ] は、指定した条件によって入力データファイルを分割するためのフィルタ、[ データファイル挿入 ] は、指定した条件によって入力データファイルへデータを挿入するためのフィルタ、[ メール送信 ] は、メールを送信するためのフィルタです。

各フィルタの詳細については「15. フィルタ詳細・エラーメッセージ」をご覧ください。

「プログラム実行」フィルタの場合、画面下のフィルタパラメータリストで、[ パラメータ ] 欄に「実行コマンド」と表示された行を選択し、[ 設定値 ] 欄の右端の [ ... ] ボタンをクリックすると [ 設定値 ] 欄が入力可能状態になります。[ 設定値 ] 欄に実行するプログラムのコマンドラインを入力してください。

例えば、ファイルのパスを受け取って何かを処理するプログラム「C:\yourapplication.exe」を使って出力された PDF 帳票ファイルを処理する場合は後処理フィルタに「プログラム実行」フィルタを追加し、以下のようにコマンドラインを入力します。

```
C:\yourapplication.exe ${out}
```

ここで「\${out}」と記述されている部分は実行時に PDF ファイルのパスに展開されます。同様に「\${in}」と記述するとその部分はデータファイルのパスに展開されます。ここで指定することができるこのようなキーワードについては「11. ジョブプロパティ」の項目をご覧ください。

設定を確定する場合は [OK] ボタンをクリックします。

## 変更

登録したフィルタの設定を変更する場合は、フィルタリストでフィルタを選択し、画面下の [ 設定 ] ボタンをクリックします。登録時と同じ設定画面が表示されるので設定を変更してください。

## 削除

登録したフィルタを削除する場合は、フィルタリストでフィルタを選択し、画面下の [ 削除 ] ボタンをクリックします。

## 有効 / 無効

登録したフィルタは初期設定ではすべて有効になっています。登録したフィルタを実行しないように一時的に無効化する場合は、画面下の [ 無効 ] ボタンをクリックします。フィルタリストにある [ 有効 ] 項目から「○」が消え、フィルタは実行されなくなります。フィルタが実行されるように元に戻す場合は、画面下の [ 有効 ] ボタンをクリックしてフィルタを有効にしてください。

## 並び替え

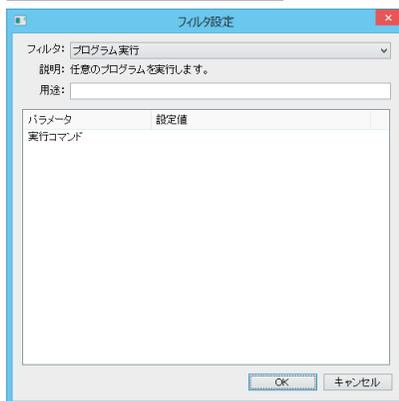
フィルタは前処理・後処理ともに登録された順番「No.1～No.10」で処理されます。この順番を変更する場合は、フィルタリストでフィルタを選択し、画面下の [▲][▼] ボタンをクリックして並び替えを行います。

### 8-1. 前処理用フィルタ

#### プログラム実行

任意のプログラムを実行するためのフィルタです。

図：プログラム実行フィルタ



#### [ 実行コマンド ]

実行するプログラムのコマンドラインを設定します。

#### << 注意 >>

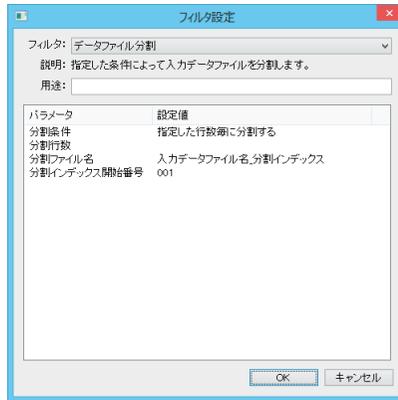
Windows の標準コマンド「move」「copy」などをコマンドラインで使用する場合は、「cmd.exe /c copy \${in} C:\%backup」のように「cmd.exe」上で実行するように記述する必要があります。さらに、「/c」オプションで、コマンド実行後に自動的に終了するようにしておきます。コマンド実行後に実行したプログラムが自動的に終了しない場合、以降の監視フォルダの処理が実行されなくなります。

※任意で呼び出した外部のプログラムも同様に、実行後に自動的に終了するようなプログラムである必要があります。特に、GUI（ユーザインタフェース）を持つプログラムを呼び出す場合、実行後に自動的に終了しない可能性がありますので、十分に注意してください。

## データファイル分割

指定した条件によって入力データファイルを分割するためのフィルタです。データファイルを分割すると、分割したデータファイル毎に Create!Form ランタイムが実行されます。

図：データファイル分割フィルタ



データファイル分割の詳細については「15. フィルタ詳細・エラーメッセージ」をご覧ください。

### 【分割条件】

入力データファイルの分割条件として [ キーブレイク毎に分割する ] [ 指定した行数毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかを選択します。

[ キーブレイク毎に分割する ] を選択した場合、キー項目のデータがキーブレイクする毎に入力データファイルを分割します。キー項目の設定は、「1 列目」「2 列目」といった列による指定や、「1 ページ 10 行中の 3 行 1 列目」といった各ページ毎の行と列による指定が可能です。

[ 指定した行数毎に分割する ] を選択した場合、指定した行数毎に入力データファイルを分割します。「3 行」や「10 行」といった分割行数を指定して入力データファイルを分割します。

[ 条件値と一致する毎に分割する ] を選択した場合、キー項目のデータが条件値と一致する毎に分割します。条件値との一致の判定は、「1 列目」「2 列目」といった列による指定や、各ページ毎の行と列による指定が可能です。

### 【入力データ種別】

入力データファイルのデータ種別として [ CSV ] [ テキスト ] のいずれかを選択します。

入力データファイルが CSV 形式の場合は [ CSV ] を選択し、テキスト形式の場合は [ テキスト ] を選択します。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ ページ行数 ]**

入力データファイルの 1 ページ分のページ行数を指定します。

分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] の場合、ページ行数毎にキー項目のキーブレイクを判定し、入力データファイルを分割します。

分割条件が [ 条件値と一致する毎に分割する ] の場合、ページ行数毎にキー項目の分割条件値を判定し、入力データファイルを分割します。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の行番号 ]**

キー項目の行番号を指定します。

キー項目の行番号を指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の列番号 ( キー項目の開始桁 / キー項目の長さ ) ] も指定する必要があります。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の列番号 ]**

キー項目の列番号を指定します。

ページ内指定行のみのキー項目を判定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の行番号 ] も指定する必要があります。毎行、キー項目を判定する場合は、[ キー項目の列番号 ] のみ指定してください。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の開始桁 ]**

キー項目の開始桁を指定します。

キー項目の開始桁を指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の長さ ] も指定する必要があります。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の長さ ]**

キー項目の長さを指定します。

キー項目の長さを指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の行番号 ] [ キー項目の開始桁 ] も指定する必要があります。

※分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] [ 条件値と一致する毎に分割する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ 分割行数 ]**

分割する行数を指定します。「3」と指定した場合、「3行毎」に入力データファイルが分割されます。

※分割条件が [ 指定した行数毎に分割する ] の場合に表示されます。

**[ 分割条件値 ]**

分割の条件値を指定します。

指定した分割条件値と入力データファイルの指定した項目が一致した場合、入力データファイルが分割されます。入力データ種別が [ テキスト ] の場合、項目の前後の空白は取り除いた状態で分割条件値の判定が行われます。

※分割条件が [ 条件値と一致する毎に分割する ] の場合に表示されます。

**[ 分割条件値の行を含める ]**

指定した分割条件値と一致した場合、分割条件値の行のデータを分割後のデータファイルに含めるかどうかを選択します。

[ はい ] を選択した場合、分割条件値のデータは分割後のデータファイルに含めます。

[ いいえ ] を選択した場合、分割条件値のデータは分割後のデータファイルに含めません。

※分割条件が [ 条件値と一致する毎に分割する ] の場合に表示されます。

**[ 分割ファイル名 ]**

分割後のファイル名を指定します。入力データファイル名や分割インデックスなどを組み合わせることで、分割後のファイル名を柔軟に指定することができます。分割する毎に連番を振りたい場合、「入力データファイル名\_分割インデックス」のように指定します。

[ 入力データファイル名 ] を指定した場合、入力データファイル名（拡張子なし）が展開されます。入力データファイルとして「input\_data.csv」を利用した場合、「input\_data」が入力データファイル名として展開されます。

[ 分割インデックス ] を指定した場合、分割インデックスが展開されます。分割インデックスは分割する毎にインデックス番号が1つ加算されます。分割インデックス開始番号が「001」と指定されている場合、「001」「002」「003」「…」のように分割インデックスが展開されます。

[ キー項目名 ] を指定した場合、キーブレイク発生時のキー項目名が展開されます。キー項目名が「空文字」や「¥ / : \* ? " < > | ¥t(タブ)」のいずれかが含まれている場合、エラーとなります。なお、[ キー項目名 ] は分割条件が [ キーブレイク毎に分割する ] の場合のみ有効です。

[ 分割条件値 ] を指定した場合、分割条件値が展開されます。分割条件値に「abcde」が指定されている場合、そのまま「abcde」が展開されます。なお、[ 分割条件値 ] は分割条件が [ 分割条件値と一致する毎に分割する ] の場合のみ有効です。

### [ 分割インデックス開始番号 ]

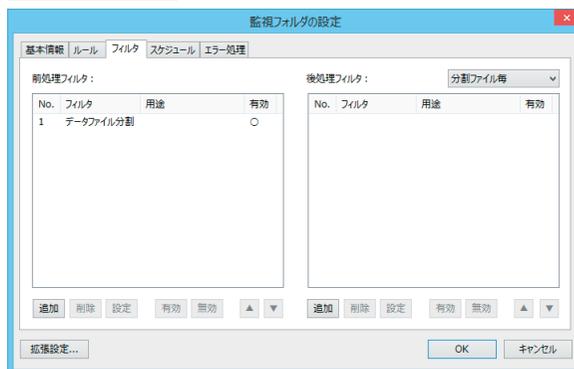
分割インデックス開始番号を指定します。

「001」と指定した場合、開始番号が「1」、桁数が「3」となり、「001」「002」「003」「…」のように0埋めされます。一方で、「1」と指定した場合、開始番号が「1」、桁数が「1」となり、「1」「2」「3」「…」のようになります。

### データファイル分割（分割ファイル毎 / 全て処理後）

データ分割フィルタを前処理フィルタへ追加すると、フィルタ設定画面の後処理フィルタへ [ 分割ファイル毎 ] と [ 全て処理後 ] のコンボボックスが表示されます。

図：フィルタ設定

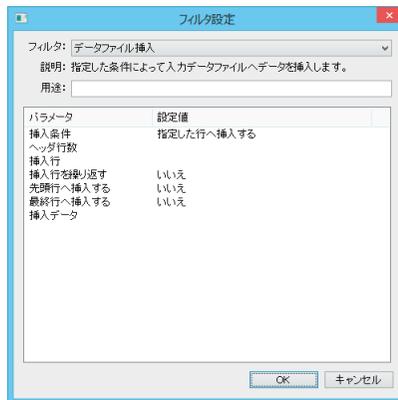


[ 分割ファイル毎 ] へ追加した後処理フィルタは、データファイルの分割が行われる毎に呼び出される後処理フィルタとなります。例えば、1つのデータファイルが3つに分割された場合、[ 分割ファイル毎 ] の後処理フィルタは3回呼び出されます。一方、[ 全て処理後 ] へ追加した後処理フィルタは、データファイルの分割数に関係なく、監視フォルダへ投入した1つのデータファイルの処理が全て完了後に1回呼び出される後処理フィルタとなります。

## データファイル挿入

指定した条件によって入力データファイルヘータを挿入するためのフィルタです。

図：データファイル挿入フィルタ



データファイル挿入の詳細については「15. フィルタ詳細・エラーメッセージ」をご覧ください。

### 【挿入条件】

データファイルの挿入条件を選択します。

〔キーブレイク毎に挿入する〕を選択した場合、キー項目のデータがキーブレイクする毎に挿入します。キー項目の設定は、「1 列目」「2 列目」といった列による指定や、「1 ページ 10 行中の 3 行 1 列目」といった各ページ毎の行と列による指定が可能です。

〔指定した行へ挿入する〕を選択した場合、指定した行ヘータを挿入します。「3 行」や「10 行」といった挿入行を指定してデータを挿入します。

〔条件値と一致する毎に挿入する〕を選択した場合、キー項目のデータが条件値と一致する毎にデータを挿入します。条件値との一致の判定は、「1 列目」「2 列目」といった列による指定や、各ページ毎の行と列による指定が可能です。

### 【ヘッダ行数】

挿入先データのヘッダ行数を指定します。ヘッダ行数を指定すると、ヘッダ行はデータ挿入の対象外となり、ヘッダ行の直後を基準にデータ挿入が行われます。ヘッダ行数を「3」と指定した場合、「4 行目以降」をデータ挿入の基準としてデータが挿入されます。

### 【入力データ種別】

入力データファイルのデータ種別として [CSV] [テキスト] のいずれかを選択します。

入力データファイルが CSV 形式の場合は [CSV] を選択し、テキスト形式の場合は [テキスト] を選択します。

※挿入条件が〔キーブレイク毎に挿入する〕〔条件値と一致する毎に挿入する〕のいずれかの場合に表示されます。

**[ ページ行数 ]**

入力データファイルの1ページ分のページ行数を指定します。

挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] の場合、ページ行数毎にキー項目のキーブレイクを判定し、データを挿入します。

挿入条件が [ 条件値と一致する毎に挿入する ] の場合、ページ行数毎にキー項目の挿入条件値を判定し、データを挿入します。

※挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] [ 条件値と一致する毎に挿入する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の行番号 ]**

キー項目の行番号を指定します。

キー項目の行番号を指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の列番号 ( キー項目の開始桁 / キー項目の長さ ) ] も指定する必要があります。

※挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] [ 条件値と一致する毎に挿入する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の列番号 ]**

キー項目の列番号を指定します。

ページ内指定行のみのキー項目を判定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の行番号 ] も指定する必要があります。毎行、キー項目を判定する場合は、[ キー項目の列番号 ] のみ指定してください。

※挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] [ 条件値と一致する毎に挿入する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の開始桁 ]**

キー項目の開始桁を指定します。

キー項目の開始桁を指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の長さ ] も指定する必要があります。

※挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] [ 条件値と一致する毎に挿入する ] のいずれかの場合に表示されます。

**[ キー項目の長さ ]**

キー項目の長さを指定します。

キー項目の長さを指定する場合、[ ページ行数 ] [ キー項目の行番号 ] [ キー項目の開始桁 ] も指定する必要があります。

※挿入条件が [ キーブレイク毎に挿入する ] [ 条件値と一致する毎に挿入する ] のいずれかの場合に表示されます。

**【挿入行】**

挿入する行を指定します。「3」と指定した場合、「3行目」にデータが挿入されます。

※挿入条件が [ 指定した行へ挿入する ] の場合に表示されます。

**【挿入行を繰り返す】**

挿入行の繰り返しを選択します。

[ はい ] を選択し、データの挿入行を「3」と指定した場合、「3行目」「6行目」「9行目」「…」といった3の倍数の行へデータが挿入されます。

[ いいえ ] を選択し、データの挿入行を「3」と指定した場合、「3行目」のみにデータが挿入されます。

※挿入条件が [ 指定した行へ挿入する ] の場合に表示されます。

**【挿入条件値】**

挿入の条件値を指定します。

指定した挿入条件値と入力データファイルの指定した項目が一致した場合、データが挿入されます。入力データ種別が [ テキスト ] の場合、項目の前後の空白は取り除いた状態で挿入条件値の判定が行われます。

※挿入条件が [ 条件値と一致する毎に挿入する ] の場合に表示されます。

**【挿入位置】**

データの挿入位置を選択します。

[ 挿入条件値の行の直前 ] を選択した場合、指定した挿入条件値と入力データファイルの指定した項目が一致した場合、挿入条件値の行の直前にデータが挿入されます。

[ 挿入条件値の行の直後 ] を選択した場合、指定した挿入条件値と入力データファイルの指定した項目が一致した場合、挿入条件値の行の直後にデータが挿入されます。

※挿入条件が [ 条件値と一致する毎に挿入する ] の場合に表示されます。

**【先頭行へ挿入する】**

先頭行へのデータ挿入の有無を選択します。ヘッダ行数が指定されている場合、ヘッダ行の直後を先頭行としてデータが挿入されます。

[ はい ] を選択した場合、挿入条件に関係なく、先頭行へデータを挿入します。

[ いいえ ] を選択した場合、先頭行へデータを挿入しません。

**[ 最終行へ挿入する ]**

最終行へのデータ挿入の有無を選択します。

[ はい ] を選択した場合、挿入条件に関係なく、最終行へデータを挿入します。

[ いいえ ] を選択した場合、最終行へデータを挿入しません。

**[ 挿入データ ]**

挿入するデータファイルを指定します。

**8-2. 後処理用フィルタ****プログラム実行**

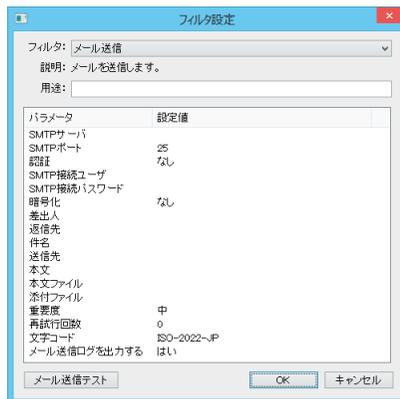
任意のプログラムを実行するためのフィルタです。

詳しくは「8-1. 前処理用フィルタ」の「プログラム実行」をご覧ください。

**メール送信**

メールを送信するためのフィルタです。PDF ファイルなどの出力結果をメールに添付したり、メール本文にジョブの終了コードといったマクロを埋め込むことができます。

図：メール送信フィルタ



メール送信の詳細については「15. フィルタ詳細・エラーメッセージ」をご覧ください。

**[SMTP サーバ]**

メール送信用の SMTP サーバを設定します。

SMTP サーバはホスト名または IP アドレスによる設定ができます。

**[SMTP ポート]**

メール送信用の SMTP ポートの番号を設定します。

**[ 認証 ]**

メール送信時の認証方式を選択します。

[ なし ] を選択した場合、メール送信時に認証を行いません。

[ SMTP 認証 ] を選択した場合、メール送信時に SMTP 認証を行います。SMTP 認証を行う場合、[ SMTP 接続ユーザ ] [ SMTP 接続パスワード ] も設定する必要があります。

**[ SMTP 接続ユーザ ]**

メール送信時の SMTP 接続ユーザを設定します。

**[ SMTP 接続パスワード ]**

メール送信時の SMTP 接続パスワードを設定します。

**[ 暗号化 ]**

メール送信時の暗号化方式を選択します。

[ なし ] を選択した場合、メール送信時に暗号化を行いません。

[ SSL ] を選択した場合、メール送信時に SSL で暗号化を行います。

[ TLS ] を選択した場合、メール送信時に TLS で暗号化を行います。

**[ 差出人 ]**

メールの差出人 (From) のアドレスを設定します。

以下のような書式を利用することで、“差出人の名前”を指定することができます。

書式：アドレス，名前

**[ 返信先 ]**

メールの返信先 (Reply-To) のアドレスを設定します。

以下のような書式を利用することで、“返信先の名前”を指定することができます。

書式：アドレス，名前

**[ 件名 ]**

メールの件名 (Subject) を設定します。

**[ 送信先 ]**

メールの送信先 (To) のアドレスを設定します。

セミコロン「;」で区切ることで、複数の送信先のアドレスを設定することができます。さらに、「cc:」をアドレスの先頭に付加すると CC のアドレスとして扱われ、「bcc:」をアドレスの先頭に付加すると BCC のアドレスとして扱われます。「file:」をアドレスの先頭に付加すると、送信先ファイルを参照して送信先を設定することができます。また、以下のような書式を利用することで、「送信先の名前」や「データ」を指定することもできます。

( 書式 )

アドレス，名前，データ 1，データ 2，データ 3，データ 4，データ 5

「データ」で設定した任意の値は、メール本文中でマクロ「`{mail.to.data.1}`」のようにして最大5つまで取得することができます。

以下は、送信先の設定例です。

(複数の送信先を設定する)

`taro@example.com;hanako@example.com`

(送信先の名前を設定する)

`taro@example.com, 帳票太郎`

(CCを設定する)

`taro@example.com;cc:hanako@example.com`

(BCCを設定する)

`taro@example.com;bcc:hanako@example.com`

(データを設定する)

`taro@example.com, 帳票太郎, 株式会社ABC, 営業部`

メール本文中でマクロ「`{mail.to.data.1}`」と記述すると「株式会社ABC」に展開され、マクロ「`{mail.to.data.2}`」と記述すると「営業部」に展開されます。

(送信先ファイルを利用して設定する)

`file:C:\path\to\address.txt`

送信先は設定値へ直接設定するだけでなく、外部の送信先ファイルを参照して設定することができます。送信先ファイルには

`taro@example.com, 帳票太郎`

`hanako@example.com, 帳票花子`

のように1行につき1送信先を記述してください。

設定値への直接設定と同様に、送信先ファイル内でも書式による設定ができます。また、セミコロン「;」を利用して1行で複数の送信先を設定した場合、1通のメールが複数の送信先へ送信されます。一方で、1行1送信先として複数行で設定した場合、それぞれの送信先に対して個別のメールとして送信されます。

## [本文]

メールの本文を設定します。

本文内ではマクロを利用することができます。「本文」と「本文ファイル」を同時に設定した場合、「本文ファイル」の設定が優先されます。

**[ 本文ファイル ]**

メールの本文を外部のファイルから設定します。

カンマ「,」で区切ることで複数のファイルを設定することができます。なお、本文ファイル内ではマクロを利用することができます。また、ファイルの文字コードは「Shift-JIS」「UTF-8(BOMあり)」「UTF-16(BOMあり)」が利用できます。「本文」と「本文ファイル」を同時に設定した場合、「本文ファイル」の設定が優先されます。

**[ 添付ファイル ]**

メールへ添付するファイルを設定します。

カンマ「,」で区切ることで複数のファイルを設定することができます。なお、日本語を含むファイル名のファイルを添付することはできません。

**[ 重要度 ]**

メールの重要度 (Priority) を選択します。

[ 低 ] を選択した場合、メールの重要度は低に設定されます。

[ 中 ] を選択した場合、メールの重要度は中に設定されます。

[ 高 ] を選択した場合、メールの重要度は高に設定されます。

**[ 再試行回数 ]**

メール送信の再試行回数を設定します。

メールの送信に失敗した場合、設定した回数だけメールの送信を試みます。

**[ 文字コード ]**

メール送信時の文字コードを設定します。

通常は既定の文字コード「ISO-2022-JP」で問題ありません。メール送信時の文字コードとしては「SJIS」「EUC-JP」「UTF-8」などが設定できます。

**[ メール送信ログを出力する ]**

メール送信時に詳細な送信ログファイルを出力するかどうかを選択します。送信ログファイルのファイル名は「(監視フォルダ設定のログファイル名)\_mail.log」としてログ出力先へ出力されます。

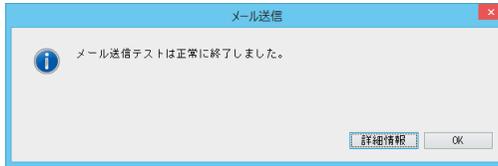
**[ メール送信テスト ]**

現在のメール送信の設定を利用してメール送信テストを行います。メール送信が正常に行われると、「メール送信テストは正常に終了しました。」とメッセージが表示されます。

<< 注意 >>

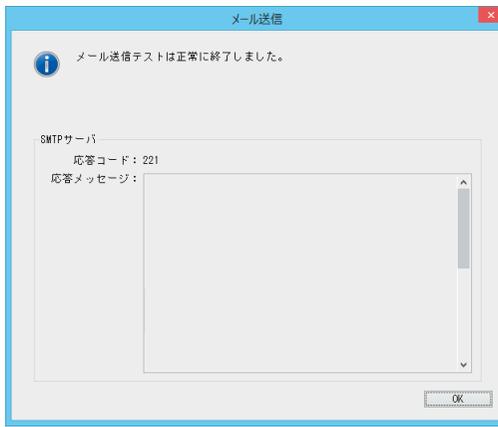
メール送信テストでは、メール本文中に記述した [ 未分類 ] [ ジョブ ] [ 環境 ] [ 実行オプション ] [ 日付・時刻 ] に属するマクロは展開されません。

図：メール送信テスト



[ 詳細情報 ] ボタンをクリックすることで、送信メールサーバからの詳細な応答メッセージを確認することができます。応答メッセージは、メール送信エラーが発生した際に、エラーの原因を調査するための手がかりとなります。

図：詳細情報



## 9. スケジュール機能

監視処理にはスケジュールを設定することができます。スケジュールを設定しない場合は、FormMagicfolder サービスが動作している間は常に監視を続けます。初期設定ではスケジュールは設定されません。

スケジュール機能を利用する場合は、監視フォルダの設定画面の [スケジュール] タブで設定を行います。

図：スケジュール設定

スケジュール機能を有効にする場合は、[スケジュールを有効にする] のチェックを有効にして、以下の項目を設定します。

### 【監視単位】

監視スケジュール単位を選択します。

[毎日]、[週単位]、[月単位]、[指定日] から選択します。

[毎日]：毎日、[時刻指定] で指定された時間内で監視します。

[週単位]：毎週、チェックが ON になっている曜日で、[時刻指定] で指定された時間内で監視します。

[月単位]：毎月、指定された日に、[時刻指定] で指定された時間内で監視します。

[指定日]：指定された日のみ、[時刻指定] で指定された時間内で監視します。

### 【週単位】

[監視単位] で [週単位] を選択した場合に設定します。監視させたい曜日のチェックを ON にします。複数の曜日が指定可能です。

### 【月単位】

[監視単位] で [月単位] を選択した場合に設定します。監視させたい日を選択します。

### 【指定日】

[監視単位] で [指定日] を選択した場合に設定します。監視させたい特定の日付（年月日）を選択します。

**【時刻指定】**

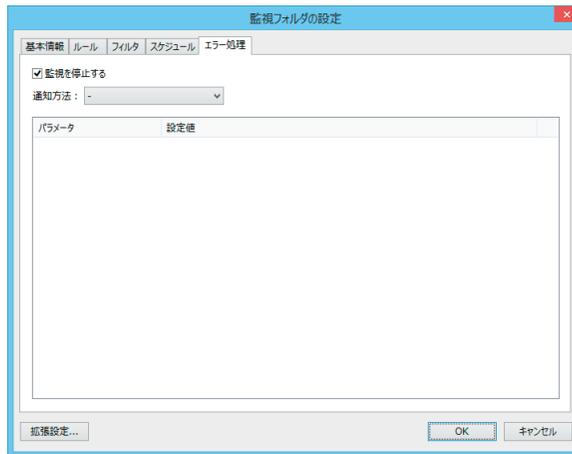
監視させる [開始時刻] と [終了時刻] を指定します。[監視単位] でいずれを選択した場合でも有効です。[開始時刻] と [終了時刻] も監視時間に含まれます。24 時間を指定したい場合は、[00] 時 [00] 分から [00] 時 [00] 分など、[開始時刻] と [終了時刻] を同じ設定にすることで指定できます。なお、日付をまたいだ ([23] 時 [00] 分から [14] 時 [00] 分など) 指定はできません。例えば、毎週火曜日、水曜日の [開始時刻] を [23] 時 [00] 分、[終了時刻] を [14] 時 [00] 分とした場合、火曜 23:00 から水曜 14:00 までとはならず、火、水曜の 14:00 から 23:00 までと解釈されます。

## 10. エラー処理機能

監視フォルダの処理でエラーが発生した場合の処理を設定することができます。エラー処理では任意のプログラムを実行させることもできるため、例えばエラーが発生したことを管理者宛にメール通知させるといったことが実現できます。

エラー処理については、監視フォルダの設定画面の [エラー処理] タブで設定を行います。

図：エラー処理設定



### 【監視を停止する】

このチェックを有効にすると、エラー発生時に監視フォルダの監視処理を強制的に [停止] 状態にします。

### 【通知方法】

エラーが発生したときに実行する処理を選択します。何も処理を行わない場合は「-」を選択します。

[通知方法] によって画面下のパラメータリストが変わりますので必要に応じてパラメータの設定を行います。

## エラーファイル生成

エラー内容などを任意のファイルに出力する場合は、[通知方法] で「エラーファイル生成」を選択し以下のパラメータを設定します。

### 【ファイル名】

出力するファイル名をフルパスで指定します。

### 【本文】

ファイルの本文テキストの内容を記述します。本文中ではジョブプロパティが使用できます。例えば「エラーコード：\${cf.result.code}」と記述すると「エラーコード：-2201」のように展開されます。

## プログラム実行

エラー発生時に任意のプログラムを実行するためのエラー処理フィルタです。

詳しくは「8-1. 前処理用フィルタ」の「プログラム実行」をご覧ください。

## メール送信

エラー発生時にメールを送信するためのエラー処理フィルタです。PDF ファイルなどの出力結果をメールに添付したり、メール本文にジョブの終了コードといったマクロを埋め込むことができます。

詳しくは「8-2. 後処理用フィルタ」の「メール送信」や「15. フィルタ詳細・エラーメッセージ」をご覧ください。

## 11. ジョブプロパティ

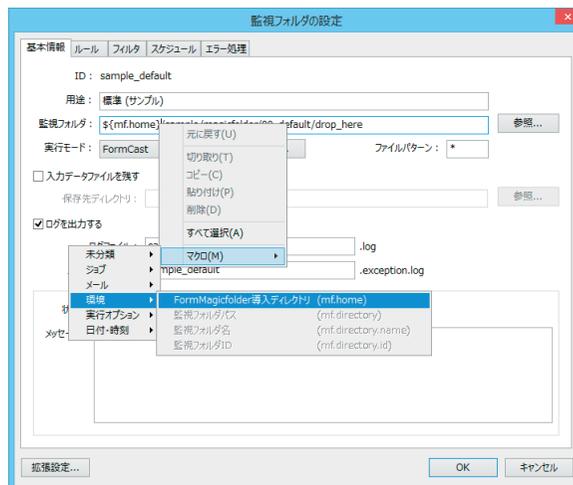
FormMagicfolder ではフィルタやエラー通知など各設定で特殊なパラメータを使用できます。例えばパラメータ取得ルール機能で「ジョブファイル名」を取得して、それをフィルタの実行コマンドの引数などで「\${cf.opt.s}」と記述して利用することができます。このように設定間で共有できるパラメータをジョブプロパティと呼びます。

各プロパティは「cf.opt.s」のような名前で定義されています。フィルタのパラメータなどでは「\${cf.opt.s}」のように「\${}」と「}」で囲むことでキーワードとして認識され、実行時に値が展開されます。

### 11-1. マクロ

設定ツールでは「マクロ」として各種入力項目でプロパティを入力することができます。例えば監視フォルダのパス入力欄やフィルタのパラメータで設定値の入力欄に入力する場合は、入力欄で右クリックしてメニューの [マクロ] のサブメニューから選択して入力できます。

図：マクロ



## 11-2. プロパティ一覧

### 未分類

**user.1** (フリーパラメータ 1)

**user.2** (フリーパラメータ 2)

**user.3** (フリーパラメータ 3)

**user.4** (フリーパラメータ 4)

**user.5** (フリーパラメータ 5)

自由に使えるパラメータです。

例えば、ファイルの先頭行に記述されたキーワードを後処理フィルタに登録されたプログラムの引数に渡す必要があるような場合、まずファイル先頭行ルールを使用して「フリーパラメータ 1」として取得し、後処理フィルタプログラムのパラメータとして「\${user.1}」を指定することで実現できます。このように、Create!Formとは直接関係ないパラメータのやり取りも可能になります。

### ジョブ

**in** (入力ファイルパス)

入力データファイルのパスに展開されます。読み取り専用です。

**in.name** (入力ファイル名)

入力データファイルのファイル名に展開されます。読み取り専用です。

**in.name.short** (入力ファイル名 (拡張子なし))

入力データファイルのファイル名 (拡張子なし) に展開されます。読み取り専用です。

**out** (出力ファイルパス)

出力ファイルのパスに展開されます。読み取り専用です。

**job.id** (ジョブ ID)

ジョブ識別用の ID を表します。Create! FormRemoteObject 製品と連携する際に使用します。

**job.form.name** (帳票名)

帳票資源ファイルのジョブファイルに設定されている帳票名に展開されます。読み取り専用です。

**cf.result.code** (エラーコード)

Create! Form ランタイムの終了コードに展開されます。読み取り専用です。

**cf.result.message** (エラーメッセージ)

Create! Form ランタイムのエラーメッセージに展開されます。読み取り専用です。

**cf.mode** (実行モード)

実行モード (FormCast、FormCollect、FormPrint、FormPrintStage、FormPrintStage Web) を表します。

## メール

**mail.smtp.host (SMTP サーバ)**

SMTP サーバを表します。

**mail.smtp.port (SMTP ポート)**

SMTP ポートを表します。

**mail.auth (認証)**

SMTP 認証方式 (none、smtp-auth) を表します。

**mail.crypto (暗号化)**

暗号化方式 (none、ssl、tls) を表します。

**mail.from (差出人)**

差出人を表します。

**mail.from.name (差出人名)**

差出人名を表します。

**mail.replyto (返信先)**

返信先を表します。

**mail.replyto.name (返信先名)**

返信先名を表します。

**mail.subject (件名)**

件名を表します。

**mail.to (送信先)**

送信先を表します。

**mail.to.address (送信先アドレス)**

送信先アドレスを表します。

**mail.to.name (送信先名)**

送信先名を表します。

**mail.to.data.1 (送信先データ 1)**

送信先データ 1 を表します。

**mail.to.data.2 (送信先データ 2)**

送信先データ 2 を表します。

**mail.to.data.3 (送信先データ 3)**

送信先データ 3 を表します。

**mail.to.data.4 (送信先データ 4)**

送信先データ 4 を表します。

**mail.to.data.5 (送信先データ 5)**

送信先データ 5 を表します。

**mail.cc.address (CC アドレス)**

CC アドレスを表します。

**mail.cc.name (CC 名)**

CC 名を表します。

**mail.bcc.address (BCC アドレス)**

BCC アドレスを表します。

**mail.bcc.name (BCC 名)**

BCC 名を表します。

**mail.body (本文)**

本文を表します。

**mail.body.file (本文ファイル)**

本文ファイルを表します。

**mail.attach (添付ファイル)**

添付ファイルを表します。

**mail.priority (重要度)**

重要度を表します。

**mail.retry.times (再試行回数)**

再試行回数を表します。

**mail.charset (文字コード)**

文字コードを表します。

## 環境

**mf.home (FormMagicfolder 導入ディレクトリ)**

FormMagicfolder 導入ディレクトリのパスに展開されます。

**mf.directory (監視フォルダパス)**

監視フォルダのパスに展開されます。読み取り専用です。

**mf.directory.name (監視フォルダ名)**

監視フォルダ名に展開されます。読み取り専用です。

**mf.directory.id (監視フォルダ ID)**

監視フォルダ ID に展開されます。読み取り専用です。

**実行オプション****cf.opt.D (作業ディレクトリ)**

作業ディレクトリ指定オプションの内容を表します。

**cf.opt.s (ジョブファイル名)**

ジョブファイル名指定オプションの内容を表します。

**cf.opt.# (プリンタ)**

出力プリンタ名指定オプションの内容を表します。

**cf.opt.nc (部数)**

印刷部数指定オプションの内容を表します。

**cf.opt.q (QDF ファイル名)**

QDF ファイル指定オプションの内容を表します。

**cf.opt.j (スプールファイル名)**

スプールファイル名指定オプションの内容を表します。

**cf.opts (拡張オプション)**

拡張実行オプション文字列の内容を表します。

**cf.opt.o (出力ファイルパス)**

出力ファイルパスを表します。

**日付・時刻****date (日付)****date.year (年)****date.month (月)****date.day (日)**

日付に展開されます。読み取り専用です。

**date.wday (曜日：0-6)****date.wday.jp (曜日：月、火、水、…)****date.wday.en (曜日：Mon、Tue、Wed、…)****date.wday.english (曜日：Monday、Tuesday、Wednesday、…)**

曜日に展開されます。読み取り専用です。

**time (時刻)****time.hour (時)****time.min (分)****time.sec (秒)**

時刻に展開されます。読み取り専用です。

<< 注意 >>

アノテーション機能を使用する場合、監視フォルダヘデータファイルを投入後に値が展開される “in”、“out”、“cf.result.code” などの読み取り専用パラメータを「キー = 値」形式で記述することはできません。アノテーション機能では、値が展開されないパラメータのみ記述することができます。

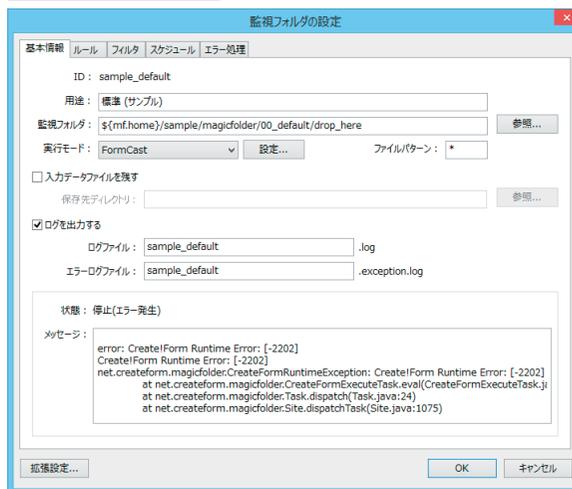
## 12. エラー発生時

監視フォルダの処理でエラーが発生すると、以下の処理が行われます。

1. 監視フォルダを停止するように指定されている場合は、監視フォルダが「停止（エラー発生）」状態になる
2. 監視フォルダ設定画面にエラーメッセージを表示する
3. エラー情報をエラーログに出力する
4. エラー情報を「var/error」ディレクトリに生成する

監視フォルダの状態が「停止（エラー発生）」になっている場合はエラーにより停止したことを表しています。詳細なエラー内容については監視フォルダ設定画面上に表示されます。

図：エラーメッセージ



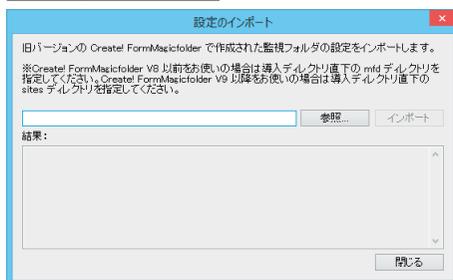
## 13. 旧バージョンからの移行

### 13-1. 設定のインポート

旧バージョンの FormMagicfolder で作成した監視フォルダ設定を移行する手順について説明します。

[設定]-[設定のインポート] を実行して次の画面を表示します。

図：設定のインポート



#### FormMagicfolder V8 以前の監視フォルダ設定を移行する場合

入力欄に監視フォルダ設定ファイルが格納されている mfd ディレクトリのパスを入力します (例: 「C:¥CreateV8¥mfd」)。もしくは [参照] ボタンをクリックして mfd ディレクトリを選択します。

#### FormMagicfolder V9 以降の監視フォルダ設定を移行する場合

入力欄に監視フォルダ設定ファイルが格納されている sites ディレクトリのパスを入力します (例: 「C:¥CreateV9¥sites」)。もしくは [参照] ボタンをクリックして sites ディレクトリを選択します。

[インポート] ボタンをクリックするとファイルを変換して監視フォルダとして登録されます。変換結果が [結果] 欄に表示されます。

### 13-2. 互換性に関する注意事項

#### マクロ

FormMagicfolder V8 以前のフィルタ機能で使用することができるパラメータについてはそれぞれ以下のパラメータに置き換わります。

```
%in → ${in}
%out → ${out}
%bfd → mfd ファイルのフルパスに展開されます
%dopt → ${cf. opt. D}
%sopt → ${cf. opt. s}
```

「%bfd」は固定のファイルパスに展開されますので注意してください。

## 後処理フィルタでの入力データファイルの参照（\${in}）

ファイル先頭行ルールが有効な状態で後処理フィルタにて入力データファイルをマクロ「\${in}」で参照する場合、FormMagicfolder V8 以前では、ファイル先頭行ルールの行を含めた投入時の元のデータファイルを参照することができます。一方、FormMagicfolder V9 以降では、ファイル先頭行ルールの行が取り除かれた状態のデータファイルが参照されます。FormMagicfolder V9 以降でも V8 以前と同様の動作に合わせる場合は、監視フォルダの拡張設定へ以下のパラメータと設定値を追加してください。

パラメータ : ext. in. backup  
設定値 : true

※設定のインポートにより、FormMagicfolder V8 以前の監視フォルダ設定をインポートする場合、必要に応じて自動的に上記のパラメータと設定値は追加されます。

## 区切り文字の扱い

FormMagicfolder V10.04.0 以降で新規に登録する監視フォルダ設定では、初期設定で以下のパラメータと設定値が拡張設定へ追加されます。そのため、ファイル名ルールの区切り文字をファイル名の先頭や末尾の他、連続して指定することができます。（「PRT1..sheet..csv」など）

パラメータ : ext. filename. token  
設定値 : true

FormMagicfolder V10.03.0 以前と同様のファイル名ルールの区切り文字の扱いを利用する場合は、監視フォルダ設定の拡張設定から上記のパラメータと設定値を削除してください。

## 14. 監視フォルダの動作について

### 14-1. 投入ファイルの処理順序

#### ファイルを順に投入する場合

監視フォルダへ投入されたファイルはファイルの転送完了順に処理されます。例えば、A、B、C というファイルの転送時間が同じファイルを順に監視フォルダへ投入した場合、A → B → C の順に処理されます。ただし、A の転送時間が B、C に比べて多くの時間を要する場合、A、B、C の順に監視フォルダへ投入すると、B → C → A の順に処理されます。

このように、投入ファイルの処理順序は投入順序ではなく、ファイルの転送完了順となります。ファイルの転送時間を要するファイルの例としては、ファイルサイズの大きいファイルが挙げられます。ファイルサイズの大きいファイルを先に投入し、先に処理させる場合は、ファイルの転送が完了した後に次のファイルを投入するような制御が必要となります。

#### ファイルを同時に投入する場合

監視フォルダへ複数のファイルを同時に投入したり、監視フォルダを停止状態としておき、複数のファイルを監視フォルダへ投入後、開始状態にすると、複数のファイルが同時に投入されたこととなります。

この場合、ファイルの転送完了順ではなく、ファイルのタイムスタンプ（最終更新日時）の古いファイルから順に処理されます。

### 14-2. ファイルの並列処理

1 つの監視フォルダにおいて投入したファイルは必ず 1 つずつ順に処理されます。複数のファイルを 1 つの監視フォルダへ投入しても複数のファイルが同時に並列処理されることはありません。

複数のファイルを同時に並列処理させる場合は、監視フォルダを複数用意し、それぞれの監視フォルダに対してファイルを投入する必要があります。ただし、それぞれの監視フォルダ間で動作を連携（監視フォルダ A のファイルが処理されたら監視フォルダ B のファイルを処理するような動作）させることはできません。それぞれの監視フォルダは非同期でファイルを並列処理します。

### 14-3. ファイル投入から処理完了までの流れ

監視フォルダへファイルが投入されると、ファイルが自動的に検知され、フィルタプログラムの実行、ルールパラメータの取得、ランタイムの実行などが監視フォルダ設定に従って行われます。

ここでは、監視フォルダへのファイル投入から処理完了までの流れを以下に説明します。

1. 外部の連携アプリケーションより監視フォルダへファイルを投入する
2. 監視フォルダへのファイル投入が検知され、ファイルが回収される
3. 「入力データファイルを残す」の出力先へ投入したファイルがコピーされる（※）
4. フィルタ「前処理フィルタ」が実行される（※）
5. ルール「ファイル先頭行からパラメータを取得」によってパラメータが取得される（※）
6. ルール「ファイル名からパラメータを取得」によってパラメータが取得される（※）
7. ランタイム「実行モード」に従って Create!Form ランタイムが実行される
8. フィルタ「後処理フィルタ」が実行される（※）
9. 監視フォルダの処理が完了する

（※）監視フォルダ設定にて該当の設定が有効な場合にのみ処理されます。

## 15. フィルタ詳細・エラーメッセージ

### 15-1. データファイル分割

指定した条件によって入力データファイルを分割するためのフィルタです。データファイルを分割すると、分割したデータファイル毎に Create!Form ランタイムが実行されます。

例えば、投入したデータファイルが最終的に3つのデータファイルに分割された場合、Create!Form ランタイムは分割後のそれぞれのデータファイルで実行されるため、3回実行されることになります。

<< 注意 >>

データファイルの分割中にエラーが発生した場合、分割処理は中断され、以降のフィルタ処理や Create!Form ランタイムの実行は行われません。

<< 注意 >>

[ファイル先頭行からパラメータを取得] や [アノテーション] が有効な場合、これらの先頭行のデータはデータファイル分割の行数には含まれません。そのため、これらの先頭行の終わりの次の行がデータファイル分割の1行目として扱われます。また、分割したファイルにはそれぞれこれらの先頭行のデータが自動的に付加されます。

データファイル分割フィルタによる出力例を以下にいくつか説明します。

#### 出力例

##### 指定した行数毎に分割する

図：分割行数「3」の場合



##### キーブレイク毎に分割する

図：キー項目の列番号「2」をキーブレイク条件とした場合



図：キー項目の行番号「2」、キー項目の列番号「1」、ページ行数「3」をキーブレイク条件とした場合

ファイル	ファイル1	ファイル2	ファイル3
1 社員	1 社員	4 社員	7 社員
2 A,100	2 A,100	5 B,200	8 C,300
3 帳票 一郎	3 帳票 一郎	6 帳票 二郎	9 帳票 三郎
4 社員			
5 B,200			
6 帳票 二郎			
7 社員			
8 C,300			
9 帳票 三郎			
10 社員			
11 A,100			
12 帳票 四郎			
13 社員			
14 B,200			
15 帳票 五郎			
16 社員			
17 C,300			
18 帳票 六郎			

条件値と一致する毎に分割する

図：キー項目の列番号「1」、分割条件値「---」を条件とした場合

ファイル	ファイル1	ファイル2	ファイル3
1 A001,1000	1 A001,1000	3 B001,600	6 C001,1200
2 ---		4 B002,800	7 C002,2000
3 B001,600			
4 B002,800			
5 ---			
6 C001,1200			
7 C002,2000			

図：キー項目の行番号「2」、キー項目の列番号「1」、ページ行数「3」、分割条件値「C」を条件とした場合

ファイル	ファイル1	ファイル2
1 社員	1 社員	10 社員
2 A,100	2 A,100	11 A,100
3 帳票 一郎	3 帳票 一郎	12 帳票 四郎
4 社員	4 社員	13 社員
5 B,200	5 B,200	14 B,200
6 帳票 二郎	6 帳票 二郎	15 帳票 五郎
7 社員	7 社員	16 社員
8 C,300	8 C,300	17 C,300
9 帳票 三郎	9 帳票 三郎	18 帳票 六郎
10 社員		
11 A,100		
12 帳票 四郎		
13 社員		
14 B,200		
15 帳票 五郎		
16 社員		
17 C,300		
18 帳票 六郎		

図：キー項目の列番号「1」、分割条件値「No」を条件とし、「分割条件値の行を含める」を有効にした場合

ファイル	ファイル1	ファイル2	ファイル3
1 No, 社員名	1 No, 社員名	4 No, 社員名	8 No, 社員名
2 001, 秋山	2 001, 秋山	5 001, 太田	9 001, 小林
3 002, 石井	3 002, 石井	6 002, 小野田	10 002, 須藤
4 No, 社員名		7 003, 岸部	
5 001, 太田			
6 002, 小野田			
7 003, 岸部			
8 No, 社員名			
9 001, 小林			
10 002, 須藤			

## データファイル処理フィルタの連携

FormMagicfolder 設定ツールの監視フォルダ設定画面にある [ フィルタ ] タブにて、[ データファイル分割 ] フィルタと [ データファイル挿入 ] フィルタを追加した場合、それぞれのフィルタは連携して動作します。

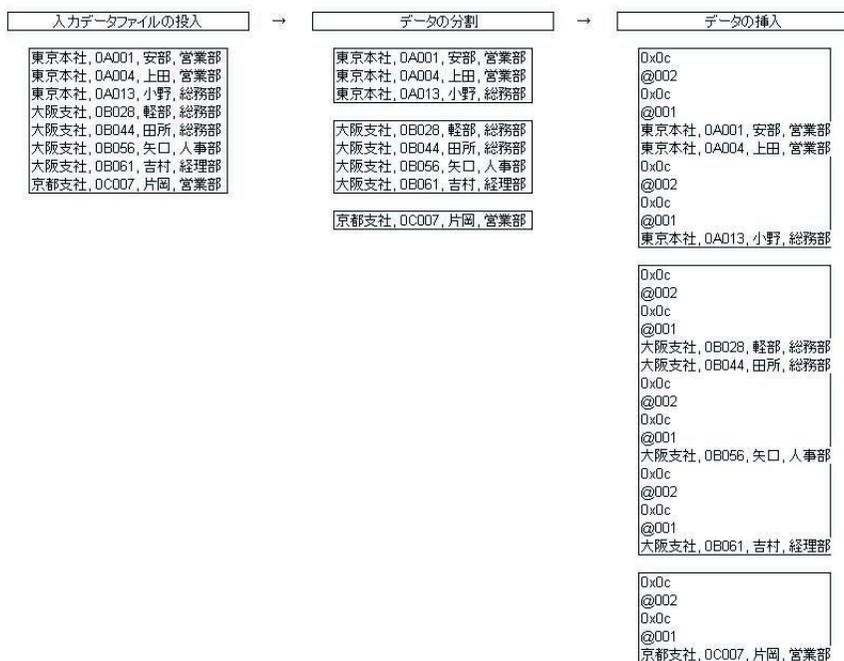
例えば、前処理フィルタの1つ目に [ データファイル分割 ] フィルタを追加し、2つ目に [ データファイル挿入 ] フィルタを追加した場合、分割されたそれぞれのデータファイルに対してデータファイルの挿入が行われます。また、前処理フィルタの1つ目に [ データファイル分割 ] フィルタを追加し、2つ目にも [ データファイル分割 ] フィルタを追加した場合、分割されたそれぞれのデータファイルに対してさらにデータファイルの分割が行われます。

このように、データファイルを処理するフィルタを複数追加することで、それぞれを連携して動作させることができます。

[ データファイル分割 ] フィルタと [ データファイル挿入 ] フィルタ連携時の出力例を以下に説明します。

1. キー項目の列番号「1」をキーブレイク条件としてデータファイルを分割する
2. キー項目の列番号「4」をキーブレイク条件、「先頭行へ挿入する」を「はい」、「最終行へ挿入する」を「いいえ」としてユニット切り替え用のデータを挿入する

図：データファイル処理フィルタの連携



## エラーメッセージ

not found input file

入力データファイルが見つかりません。

invalid charcode

文字コードが正しくありません。

invalid csv separator

CSV 区切り文字が正しくありません。

invalid csv control

CSV 制御文字が正しくありません。

failed to write output file

出力ファイルへの書き込みに失敗しました。

invalid value

値が正しくありません。

failed to access output file

出力ファイルへのアクセスに失敗しました。

invalid output name

出力ファイル名が正しくありません。

invalid index start

分割インデックス開始番号が正しくありません。

not allowed character

ファイル名に使用できない文字が含まれています。

invalid key name

キー項目名が正しくありません。

## 15-2. データファイル挿入

指定した条件によって入力データファイルへデータを挿入するためのフィルタです。

<< 注意 >>

データファイルの挿入中にエラーが発生した場合、挿入処理は中断され、以降のフィルタ処理や Create!Form ランタイムの実行は行われません。

<< 注意 >>

[ ファイル先頭行からパラメータを取得 ] や [ アノテーション ] が有効な場合、これらの先頭行のデータはデータファイル挿入の行数には含まれません。そのため、これらの先頭行の終わりの次の行がデータファイル挿入の 1 行目として扱われます。

データファイル挿入フィルタによる出力例を以下にいくつか説明します。

## 出力例

## 指定した行へ挿入する

図：挿入行「3」へ挿入データ「埼玉」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 青森	→	1 青森
2 群馬		2 群馬
3 東京		3 埼玉
4 大阪		4 東京
5 福岡		5 大阪
6 鹿児島		6 福岡
7 沖縄		7 鹿児島
		8 沖縄

図：挿入行「4」、「挿入行を繰り返す」を有効、「先頭行へ挿入する」を有効にし、挿入データ「0x0c(改ページコード)」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 東京,100	→	1 0x0c
2 東京,300		2 東京,100
3 東京,500		3 東京,300
4 大阪,200		4 東京,500
5 大阪,300		5 0x0c
6 大阪,400		6 大阪,200
7 沖縄,300		7 大阪,300
		8 大阪,400
		9 0x0c
		10 沖縄,300

## キーブレイク毎に挿入する

図：キー項目の列番号「2」をキーブレイク条件とし、挿入データ「0x0c(改ページコード)」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 001,営業部,木村	→	1 001,営業部,木村
2 002,営業部,佐藤		2 002,営業部,佐藤
3 003,営業部,小林		3 003,営業部,小林
4 004,営業部,鈴木		4 004,営業部,鈴木
5 005,人事部,工藤		5 0x0c
6 006,人事部,林		6 005,人事部,工藤
7 007,経理部,安部		7 006,人事部,林
8 008,総務部,飯田		8 0x0c
		9 007,経理部,安部
		10 008,総務部,飯田
		11 0x0c

## 条件値と一致する毎に挿入する

図：キー項目の列番号「1」、挿入条件値「---」、挿入位置「挿入条件値の行の直前」として挿入データ「0x0c(改ページコード)」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 ---	→	1 0x0c
2 A,新宿		2 ---
3 ---		3 A,新宿
4 A,品川		4 0x0c
5 B,渋谷		5 ---
6 ---		6 A,品川
7 A,池袋		7 B,渋谷
8 B,上野		8 0x0c
		9 ---
		10 A,池袋
		11 B,上野

図: キー項目の行番号「1」、キー項目の列番号「1」、ページ行数「3」、挿入条件値「xxx」として挿入データ「0x0c(改ページコード)」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 aaa	→	1 aaa
2 bbb		2 bbb
3 ccc		3 ccc
4 xxx		4 0x0c
5 bbb		5 xxx
6 ccc		6 bbb
7 aaa		7 ccc
8 bbb		8 aaa
9 ccc		9 bbb
		10 ccc

図: キー項目の行番号「2」、キー項目の列番号「1」、ページ行数「3」、挿入条件値「xxx」として挿入データ「0x0c(改ページコード)」を挿入した場合

挿入前ファイル		挿入後ファイル
1 aaa	→	1 0x0c
2 xxx		2 aaa
3 ccc		3 xxx
4 aaa		4 ccc
5 bbb		5 aaa
6 ccc		6 bbb
7 aaa		7 ccc
8 xxx		8 0x0c
9 ccc		9 aaa
		10 xxx
		11 ccc

## エラーメッセージ

not found input file

入力データファイルが見つかりません。

invalid charcode

文字コードが正しくありません。

invalid csv separator

CSV 区切り文字が正しくありません。

invalid csv control

CSV 制御文字が正しくありません。

failed to write output file

出力ファイルへの書き込みに失敗しました。

invalid value

値が正しくありません。

failed to access output file

出力ファイルへのアクセスに失敗しました。

not found insert data file

挿入データファイルが見つかりません。

### 15-3. メール送信

メールを送信するためのフィルタです。PDF ファイルなどの出力結果をメールに添付したり、件名やメール本文にジョブの終了コードといったマクロを埋め込むことができます。メール送信に関する設定は、パラメータ取得ルール機能を使用して行うこともできます。

<< 注意 >>

メール送信中にエラーが発生した場合、メール送信処理は中断され、以降のフィルタ処理や Create!Form ランタイムの実行は行われません。

#### パラメータ取得ルール機能から設定できる項目

パラメータ取得ルール機能から設定できるメール送信項目は以下の通りです。括弧内はマクロ名です。パラメータ取得ルール機能については「7. パラメータ取得ルール機能」を、各項目の説明については「8-2. 後処理フィルタ メール送信」をご覧ください。

**SMTP サーバ (mail.smtp.host)**

**SMTP ポート (mail.smtp.port)**

**差出人 (mail.from)**

**返信先 (mail.replyto)**

**件名 (mail.subject)**

**本文 (mail.body)**

**本文ファイル (mail.body.file)**

**添付ファイル (mail.attach)**

**再試行回数 (mail.retry.times)**

**文字コード (mail.charset)**

**認証 (mail.auth)**

SMTP サーバの認証方式を選択します。下記いずれかを設定してください。

none: メール送信時に認証を行いません。

smtp-auth: メール送信時に SMTP 認証を行います。

SMTP 認証を行う場合、パラメータ「SMTP 接続ユーザ」「SMTP 接続パスワード」も同時に設定する必要があります。

<< 注意 >>

SMTP 認証を選択した場合必須となる「SMTP 接続ユーザ」「SMTP 接続パスワード」は [ルール] から設定を行うことはできません。メール送信フィルタの設定画面から設定して下さい。

**暗号化 (mail.crypto)**

メール送信時の暗号化方式を選択します。下記いずれかを設定してください。

none: メール送信時に暗号化を行いません。

ssl: メール送信時に SSL で暗号化を行います。

tls: メール送信時に TLS で暗号化を行います。

### 送信先 (mail.to)

書式を使用して作成した送信先の各項目は、それぞれ以下のマクロで取得することができます。これらのマクロは読み取り専用です。

(書式)

アドレス, 名前, データ 1, データ 2, データ 3, データ 4, データ 5

(マクロ)

アドレス: mail.to.address

名前: mail.to.name

データ 1: mail.to.data.1

データ 2: mail.to.data.2

データ 3: mail.to.data.3

データ 4: mail.to.data.4

データ 5: mail.to.data.5

### 重要度 (mail.priority)

メールの重要度 (Priority) を選択します。下記いずれかを設定してください。

high: メール的重要度を高に設定します。

normal: メール的重要度を中に設定します。

low: メール的重要度を低に設定します。

## 送信先の設定について

送信先として設定される送信先アドレスは以下の 2 つに分けられます。

(A) 監視フォルダ内で常に使用する送信先アドレス

(B) 入力データファイルごとに変更する送信先アドレス

送信先としては (A) のみで構成される場合、(B) のみで構成される場合、(A) と (B) が混在する場合の 3 つが考えられます。それぞれの場合の設定について説明します。

#### (A) のみで構成される場合

フィルタの設定画面から [送信先] から送信先を設定します。

#### (B) のみで構成される場合

パラメータ取得ルール機能を用いて入力データファイルから送信先を取得します。取得するパラメータとして [送信先] を指定して下さい。

パラメータ取得ルール機能の詳細については「7. パラメータ取得ルール機能」をご覧ください。

<< 注意 >>

パラメータ取得ルール機能でパラメータ [送信先] を取得した場合、パラメータ取得ルール機能で設定した値が優先されます。フィルタの設定画面で設定した [送信先] にはメールが送信されません。

#### (A) と (B) が混在する場合

マクロのフリーパラメータを使用して、入力データファイルから取得した送信先の値をフィルタ設定の [送信先] に展開します。フリーパラメータ 1 はマクロ 「\${user.1}」 と記述すると展開されます。

フィルタの設定画面の [送信先] として  $\{user.1\}$  と (B) を、パラメータ取得ルール機能で [[未分類]フリーパラメータ1] として (A) を取得するようにそれぞれ設定します。マクロ「 $\{user.1\}$ 」に (A) が展開されるので [送信先] に (A) と (B) が設定されます。マクロについては「11. ジョブプロパティ」を、送信先の設定については「8-2. 後処理用フィルタ メール送信」を、パラメータ取得ルール機能については「7. パラメータ取得ルール機能」をそれぞれご覧ください。

例)

(要件)

ファイルの先頭行から取得した送信先と「taro@example.com」「jiro@example.com」にメールを送信する

「jiro@example.com」には CC で送信する

(設定内容)

フィルタの設定画面の [送信先] に「 $\{user.1\};taro@example.com;cc:jiro@example.com$ 」を設定します。

パラメータ取得ルール機能でファイルの先頭行から [[未分類]フリーパラメータ1] を取得するよう設定します。

## エラーメッセージ (メール送信)

invalid format "port number"

ポート番号が正しくありません。

invalid format "auth"

認証が正しくありません。

required "smtp auth user and password"

SMTP 認証ユーザとパスワードが入力されていません。

invalid format "crypto"

暗号化が正しくありません。

invalid format "from address"

差出人アドレスが正しくありません。

invalid format "reply-to address"

返信先アドレスが正しくありません。

invalid format "to address"

送信先アドレスが正しくありません。

file not exist

指定されたファイルが存在しません。

file can not open

指定されたファイルが開けません。

invalid format

書式が正しくありません。

required "to address"  
送信先が入力されていません。

invalid format "priority"  
重要度が正しくありません。

invalid format "retry times"  
再試行回数が正しくありません。

invalid format "attach"  
添付ファイルが正しくありません。

invalid format "charset"  
文字コードが正しくありません。

invalid message data  
メール送信時に致命的なエラーが発生しました。

invalid message config  
メール送信時に致命的なエラーが発生しました。

failed to send mail  
メールの送信に失敗しました。

failed to auth smtp server  
SMTP サーバの認証に失敗しました。

can not connect server  
SMTP サーバへの接続に失敗しました。

## エラーメッセージ（メール送信テスト）

終了コード：1  
メッセージ：メール送信テストは正常に終了しました。

終了コード：-1  
メッセージ：引数が正しくありません。

終了コード：-2  
メッセージ：プラグインパラメータが正しくありません。

終了コード：-3  
メッセージ：ファイル名が正しくありません。

終了コード：-4  
メッセージ：ファイルが存在しません。

終了コード：-5  
メッセージ：ファイルの読み込み中に I/O エラーが発生しました。

終了コード：-10

メッセージ：ポート番号が正しくありません。

終了コード：-11

メッセージ：認証が正しくありません。

終了コード：-12

メッセージ：SMTP 認証ユーザとパスワードが入力されていません。

終了コード：-13

メッセージ：暗号化が正しくありません。

終了コード：-14

メッセージ：差出人アドレスが正しくありません。

終了コード：-15

メッセージ：返信先アドレスが正しくありません。

終了コード：-16

メッセージ：送信先アドレスが正しくありません。

終了コード：-17

メッセージ：指定されたファイルが存在しません。

終了コード：-18

メッセージ：指定されたファイルが開けません。

終了コード：-19

メッセージ：書式が正しくありません。

終了コード：-20

メッセージ：送信先が入力されていません。

終了コード：-21

メッセージ：重要度が正しくありません。

終了コード：-22

メッセージ：再試行回数が正しくありません。

終了コード：-23

メッセージ：添付ファイルが正しくありません。

終了コード：-24

メッセージ：文字コードが正しくありません。

終了コード：-25

メッセージ：メール送信時に致命的なエラーが発生しました。

終了コード：-26

メッセージ：メール送信時に致命的なエラーが発生しました。

終了コード：-27

メッセージ：メールの送信に失敗しました。

終了コード：-28

メッセージ：SMTP サーバの認証に失敗しました。

終了コード：-29

メッセージ：SMTP サーバへの接続に失敗しました。

終了コード：-99

メッセージ：予期しないエラーが発生しました。



# **Create!Form**

FormMagicfolder 第 5 版

---

発行日  
発行者

2015 年 2 月  
インフォテック株式会社  
〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 7-5-25